

名主原遺跡 現地説明会資料

令和4年12月17日(土)

所在地	鹿屋市吾平町下名
立地	大始良川と始良川に挟まれた標高約33mの台地上
調査起因	県道鹿屋吾平佐多線改築
調査履歴	平成元年度 鹿屋市(旧吾平町)教育委員会 平成15・16年度 鹿屋市(旧吾平町)教育委員会 令和4年度～ 鹿児島県立埋蔵文化財センター
主な時代	弥生時代～古代

～花開いた古代吾平の集落跡～



基本層序



層位	特徴
I	表土
II	中世の層
III	紫ゴラ (874 年) を含む古墳時代の層
IVa	弥生～古墳時代の遺物包含層
IVb	弥生～古墳時代の遺構検出面
V	無遺物層
VIa	池田火山灰層 (約 6,500 年前)
VIb	池田降下軽石層
VII	無遺物層
VIII	アカホヤ火山灰層 (約 7,300 年前)



主な遺構



花卉形住居 (古墳時代前期)



土器廃棄遺構 (古墳時代前期)



道路状遺構 (古代)

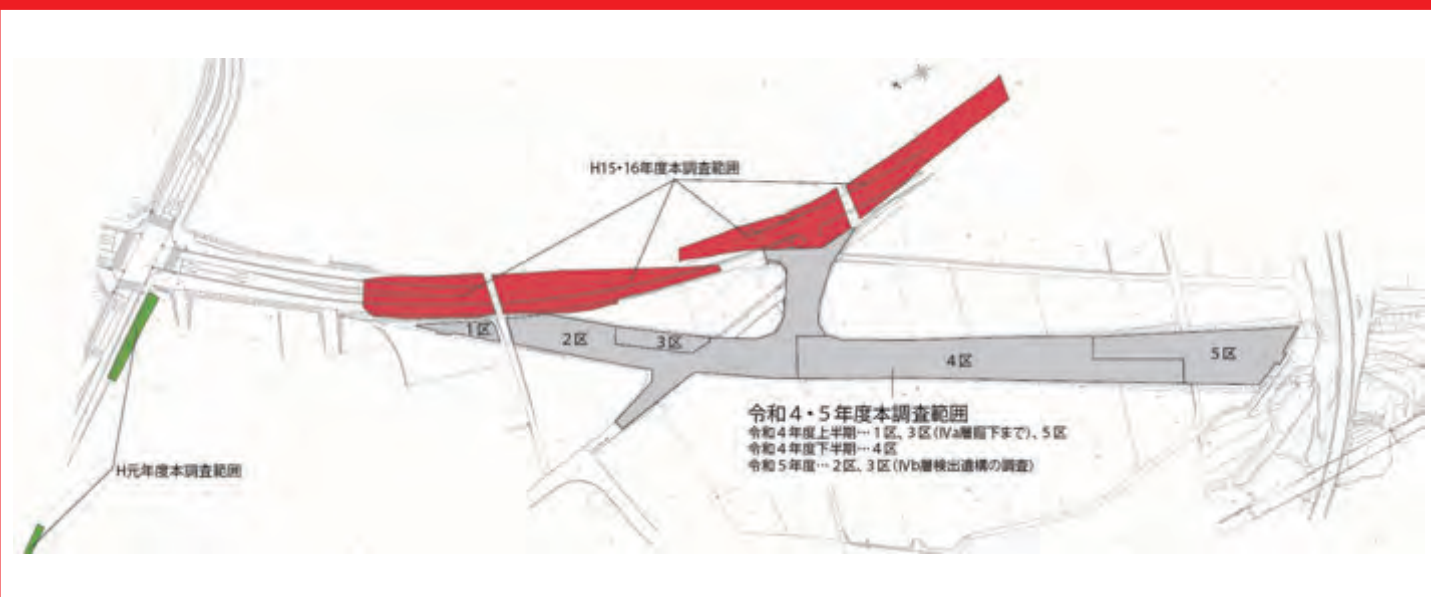


埋設土器 (古墳時代前期)

■ 主な遺物



■ 調査区



■ 名主原遺跡の調査履歴から

名主原遺跡は、鹿屋市吾平町下名に所在します。始良川と大始良川に挟まれた標高約 33mの台地上に立地しています。

今回の調査区の隣接地を平成 15・16 年度に鹿屋市（旧吾平町）教育委員会が調査しており、古墳時代前期（約 1,700 年前）では、**花弁形住居**や**竪穴建物跡**が 54 基検出され、当時の拠点集落であったと考えられます。また、出土した石器群は、石包丁や製作用砥石が主体で、稲作を行っていたことが分かります。

古墳時代後期（約 1,500 年前）では、**地下式横穴墓**が 6 基検出され、当時の墓域であったことが確認されています。

今回の調査でも、古墳時代前期の竪穴建物跡や溝状遺構などが発見されており、集落の広がりが明らかになってきました。竪穴建物の平面形は、方形や円形、花弁形があり、バラエティに富んでいます。

小型の方形の竪穴建物跡は、花弁形住居の中央部の掘り込みと、ほぼ同規模であることから、小型の方形の竪穴建物跡も本来は花弁形住居であった可能性があります。

また、集落の中には、完形もしくは、甕形土器の脚部を打ち欠いた土器が集中して出土する地点があり、中には甕形土器が入れ子の状態で出土したものもあります。そのような出土状況からこの地点が集落内の祭祀の場であったことが想定されます。

隣接地の調査成果も含め検討を進めることで、当該期の集落の様相の一端が解明されることが期待されます。

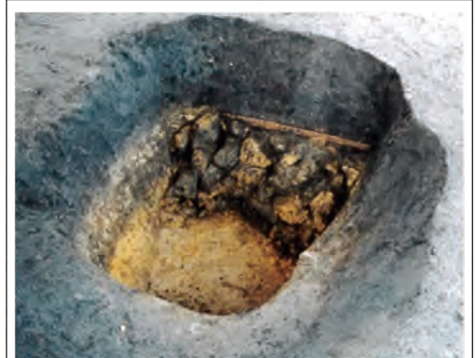


花弁形住居

上から見ると、花びらの形に見えるため、そう呼ばれます。

突出部は一段高いものが多く、ベッド・物置・祭壇などの用途が考えられます。

南九州を中心に分布しています。



地下式横穴墓

南九州固有の古墳時代の墓制の一つです。

地下に向かって竪坑を掘った後横に広げて死者を葬る玄室を築いています。玄室は、石（花崗岩や軽石など）や木材（板や丸太）、土のかたまり（アカホヤブロック）などで閉塞されます。

■ 鹿児島県立埋蔵文化財センター

埋蔵文化財センターでは、遺跡の発掘調査のほかにも、学校向けに以下のような普及啓発活動を行っています。興味のある方は、センターまでご連絡ください。



ワクワク考古楽（授業支援）

埋蔵文化財センター職員が、学校に出向き、本物の土器や石器を用いて、地域の遺跡を題材にした授業を行います。



まいぶんキット貸出事業

教室の中で、本物の土器や石器などにふれることができる実物資料の貸出事業を実施しています。

鹿児島県立埋蔵文化財センター
霧島市国分上野原縄文の森 2 番 1 号

電話 0995-48-5811 FAX 0995-48-5821



ホームページ



Facebook